

平成23年度 野生動物救護実績について

自然環境保全センター（厚木市七沢）では、県民の皆様によって救護され、運び込まれた傷病鳥獣（傷ついたり弱ったりしている野生の鳥類や哺乳類）を収容して治療し、野生に帰す（放鳥、放獣）仕事を行っています。

このたび、平成23年度野生動物救護実績がまとまりましたので、お知らせします。

1 平成23年度救護数 633点（平成22年度 604点）

2 平成23年度救護数の内訳

区分	種類	数（頭、羽）	数の割合
鳥類	66（68）	542（509）	85.6%（84.3%）
哺乳類	10（12）	91（95）	14.4%（15.7%）
合計	76（80）	633（604）	100%（100%）

*（ ）内の数字は、平成22年度

3 平成23年度の特徴

（鳥類）

- ツバメ、スズメ、キジバト、ムクドリ、シジュウカラ等が上位を占めており、例年とほぼ同様の顔ぶれです。
- 珍しい例としては、平成23年9月にクロトウゾクカモメ、11月にオーストンウミツバメ、11～12月にフルマカモメ、平成24年1月にコチョウゲンボウなど県内ではあまり見られない野鳥が救護されました。また、県レッドリストで絶滅危惧類に分類されているハヤブサ、オオコノハズクも保護されています。

（哺乳類）

- タヌキが39頭と全体の4割強を占めていますが、疥癬症（かいせんしょうダニが原因でおこる皮膚病）に罹るタヌキは、頭数・割合とも、平成22年度同様やや歯止めがかかった感があります。
- アナグマの過去5年間の救護実績が年間1～6頭であったのに対し、平成23年度は11頭と増加が目立ちますが、その原因は不明です。

（ボランティア）

- 当センターには、野生動物の飼養や治療・リハビリの補助、環境教育や普及啓発活動等を行っている多くの野生動物救護ボランティアの方々があります。
- 野生動物救護ボランティアには、一般ボランティア（注1）、短期飼養ボランティア（注2）及び長期飼養ボランティア（注3）の3種類あります。平成23年度の一般ボランティアの活動人数は年間延べ1,710人で、平成19年度以降、毎年1,000人を超える方々にご参加いただいています。また、短期・長期飼養ボランティアに飼養を依頼した野生動物の数は56件になります。

注1 一般ボランティア

当センターに保護されている鳥獣の世話や救護された動物のデータ解析、学校等へ出向いての環境教育、普及啓発活動などを行っていただいております。

注2 短期飼養ボランティア

毎年5月から8月くらいまでの間、ツバメ、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、キジバトなど、主に巣立ち前の野鳥のヒナ等の世話を30日程度行っていただいております。

注3 長期飼養ボランティア

翼が折れているなどの理由により野生に返せない鳥獣を、生涯にわたり飼養を行っていただいております。

添付資料 平成23年度野生動物救護実績(概要版)

(問い合わせ先)

神奈川県自然環境保全センター

自然保護公園部長 濱名 電話046-248-0323

野生生物課長 羽太 電話046-248-6682